令和５年度　学校評価実施報告書

幼稚園名（　　深草　幼稚園）

教育目標
豊かな心をもち、よく遊び、健やかに伸びる子どもの育成

年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和 5 年 8 月 28 日	学校運営協議会「なかよし会」
最終評価		

（１）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

・教師自身が、身近な自然環境に日常から目を向け、子どもと一緒に感じたり、気づいたり、疑問に思ったりしたことを周囲に広め、園全体の学びとなる環境をつくっていく。

・保育の中での振り返りや導入などに ICT 機器を活用し、子どもの好奇心、探究心をより豊かに育む ICT 機器の在り方を探り、取り組む。

・地域の自然に触れ経験したことが園内での遊びや生活につながる保育を展開する。

・学年の枠を越え、園全体で共に感じ合い、つながり合えるよう、環境構成に必要な情報を教職員と共有し、連携する。

・園庭や遊戯室で多様な運動遊びを楽しめる場をつくり、教師も共に楽しみ、遊びのモデルとなる。

・幼稚園きょうだいが互いを知り合い、親しみを感じる取り組みを行事や保育の中で展開する。

・クラスで集う場で、絵本の読み聞かせや遊びの振り返りや話し合いなどを通し、相手の話に興味をもち、喜んで聞く姿勢が育つよう工夫する。

・諸感覚を通して心豊かに感じる体験ができるよう、身近な自然環境や可塑性のある素材に触れ、思いを表出できる環境を整える。

（取組結果を検証する）各種指標

・週案の振り返りによる環境構成の見直しや日々の保育カンファレンスによる子どもの姿のみとり
・園内でのエピソード研修や研究保育、協議による子どもの姿のみとり
・保育活動充実のための ICT 活用での振り返り

アンケート

「子どもは、自然とのかかわりや飼育、栽培活動を楽しんでいる」
「幼稚園は、子どもが自然を身近に感じるための環境を工夫している」
「子どもは、体を動かして遊ぶことを楽しんでいる」
「子どもは、幼稚園きょうだいを知り、親しみを感じている」
「子どもは、自分の思いを話したり、友達の話を聞いたりしている」
「子どもは、幼稚園で絵本を見たり、お話を聞いたりすることを楽しんでいる」
「幼稚園は、子どもが様々な素材に触れ、遊ぶ機会を設けている」
「子どもは、感じたり思ったりしたことを様々な方法で表そうとしている」

中間評価

各種指標結果

・週案の振返りによる環境の再構成を積み重ね、様々な自然に触れたり体を動かして遊べるよう工夫した。
・竹林に複数回でかけたり「みっけバック」に見つけた草花などを入れたりして地域の自然に親しんだ。
・ICT を観察に用いたり、科学センターと ZOOM でつながったりした。
・地域への散歩のほか園内で遊ぶ機会を通して幼稚園きょうだいとの温かいかかわりが見られる。5 歳児は 4 歳児に思いやりある振る舞いが見られる。
・総合遊具のほか、竹馬や三角馬、プール遊びなど体を動かすことを十分に楽しむことができた。特に 4・5 歳児ともにしっぽ取りを楽しんだ。
・砂・泥・色水・泡・粘土・絵の具など様々な素材に触れる遊びを体験し、感触を楽しんだ。思いのままに楽しんだが、思いを素直に表出すること今後も続けていきたい。

アンケート（A：大変そう思う　B そう思う　C あまりそう思わない　D そう思わない）

自然とのかかわりや飼育、栽培活動を楽しんでいる（A83.3%　B16.7%）
園は自然を身近に感じるための環境を工夫をしている（A93.3%　B6.7%）
体を動かして遊ぶことを楽しんでいる（A83.3%　B16.7%）
幼稚園きょうだいを知り、親しみを感じている（A56.7%　B43.3%）
絵本を見たり、お話を聞いたり見たりを楽しんでいる（A56.7%　B40%　C3.3%）
園は様々な素材に触れ、遊ぶ機会を設けている（A73.3%　B26.7%）
感じたり思ったりしたことを様々な方法で表そうとしている（A46.7%　B46.7%　C6.6%）

自己評価

分析（成果と課題）

・チョウの幼虫を育て羽化まで見届けたり、ダンゴムシを飼育しどんな餌が好きか考えたりなど小さな命に触れ、自然を身近に感じ、愛着の芽生えが見られた。繰り返しの体験から得た気付きを友達と共有し、納得したり、確信したりなど学びを深める機会となった。また自然ならではの予測できない事象に不思議がったり、疑問に感じたりなどして思考が広がる姿が見られている。
・見つけた地域の自然を「みっけマップ」に落とし込んだり、虫の餌となるものを家庭から持ってきてもらったりして、子どもの興味を保護者と共有することで保護者にも園や地域の自然への関心が高まった。アンケートにも自然にかかわる項目は A 評価が高い。保護者にも園の取組が伝わ

	り、園と家庭との相乗効果で子どもの自然への関心がより広がった。 ・幼稚園きょうだいに関するアンケートでは5歳児の方が「大変そう思う」の評価が多い。昨年度の経験により、子どもが興味をもって取り組んでいることがうかがえる。後期は行事も多い。引き続き、取組の意義や成果、課題を子どもの姿を丁寧に見取りながら、幼稚園きょうだいが互いに思い合えるような環境、かかわりを進めていきたい。 ・体を動かして遊ぶ機会を大事にしてきた。アンケートにも高評価が表れている。さらに、四肢を十分使った遊びの経験や、継続した運動的な遊びを取り入れ、しなやかな心と体の育成を図ると共に、素材に触れて遊べる環境も意識していきたい。 ・友達に思いを伝えたり友達の思いを聞いたりする「言葉での伝え合い」の力はまだこれから伸びていく力でもあるが、個々に対して、まだ十分思いを出し切れていないのではないか、もっと自分の思いを十分出し切れるのではないか、との現状と可能性とを感じている。「素直に思いを表出する」こともアンケートで「大変そう思う」より、「そう思う」の方が多く、「あまりそう思わない」の割合が他の項目より多く出ていることから、人とのかかわりの中で、もっと感じたり思ったりしたことを、様々な表し方で表現してほしいという保護者の願いのあらわれが伺える。園としてもありのままの思いを言葉を含めて安心して表せることを大事に取り組んでいきたい。
	分析を踏まえた取組の改善 ・園内や地域の自然にふれ、子どもが心を動かし、感じたり、気付いたりしたことを伝え合えるよう、園外保育を計画したり、環境構成をしたりする。 ・様々な素材に触れて思いのまま遊んだり、思いを表現したりする活動を行う。 ・自分の力を発揮したり満足感や充実感が味わえたりできるよう、体を動かして遊ぶことを継続して行う
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・週案の振り返りによる環境構成の見直し ・日々の保育のカンファレンスによる子どもの姿のみとり ・園内でのエピソード研修や研究保育、協議による子どもの姿のみとり
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・園内や地域の自然に親しみを感じることはとても良いし、これからも大切にしてほしい。苗やさんへの参加や七夕の笹の提供にも協力した甲斐がある。また、「気付き」や「つながり」に着目して研究していることの報告を受け、幼稚園がしっかり取り組んでいることが良く分かった。今後も子どもの育ちのために頑張ってほしいし、協力していきたい。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評	学校関係者による意見・支援策

価	

（２）架け橋期の教育の充実に向けた幼保小連携・接続に関して

具体的な取組 ・幼小で交流・連携を行う際『幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿』や『３つの資質・能力』を手掛かりとしながら、架け橋期のカリキュラムを意識し、２年間で育てたい力を掲げ、交流の事前事後の協議では、常に焦点化した話し合いとなるようにする。 ・自園の研究保育を近隣の幼保小に公開し、幼児期の育ちや学びの共有を図る。
（取組結果を検証する）各種指標 ・交流の事前事後の協議の実施と『１０の姿』『資質・能力』などの視点での協議内容 ・研究保育の公開と協議の実施と内容 アンケート 「子どもは、小学校との交流を楽しんだり、あこがれをもったりしている」

中間評価

各種指標結果 ・小学校との交流の年間計画を立てる際、架け橋プログラムについて小学校と共通理解を図り、時間を有効活用しながら密に連携を進めていけるよう、teams の活用を始めた。また幼稚園側が入園後の１年生の授業を参観したり、幼小共に研修動画視聴をしたりした後に話し合いをもち、互いの今の子どもの実態や願いに基づき、年間通じて子どもの姿をみとっていく共通の視点を挙げ、その視点をもとに子どもの姿を見つめ、交流前後の協議をしていくことを共有した。 ・研究保育の公開を 11 月に行うことを地域の小学校、未就学児施設に広報した。 アンケート（A：大変そう思う 53.3%　B そう思う 40%　C あまりそう思わない 6.7%）	
自己評価	分析（成果と課題） 連携の意義や架け橋プログラムについて相互理解を図り、幼稚園・小学校双方で今年度は「１０の姿」の「言葉による伝え合い」に視点をあてたことで、交流の事前協議において、視点に沿って交流の意義や活動内容、導入などについて、幼小が密に話し合いを進めていくことができた。 アンケート結果については、1 学期の小学校との交流が 1 回だったこともあり 5 歳児以外の保護者には関心が低かったと分析する。今後さらに幼小連携の取組を発信する必要がある
	分析を踏まえた取組の改善 ・交流時の動画を見合い、そこから子どもの育ちや課題、願いなどを共有し、事後協議で出た子どもの見取りをもとに、今後の交流の在り方を協議し連携を深め積み上げる。 ・11 月の研究保育の公開を通して幼児教育を発信し、架け橋期の育てたい資質能力について意見交換する。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・交流の事前事後の協議の実施と『１０の姿』などの視点での協議内容 ・研究保育の公開と協議の実施と内容

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 小学校１年生の人数と５歳児の人数には大きな差があるが、交流を工夫し、互いにとって良い交流となることを期待したい。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

（３）預かり保育に関して

具体的な取組 ・未就園３歳児クラスの預かり保育開始に伴い、３歳児の心身の負担に配慮し、状況に応じて午睡や休憩ができる環境を整える。 ・異年齢児が交わり合いながら、一人一人が安心して過ごし、一緒に遊んだり、過ごしたりしてかかわることを楽しめるような玩具の準備、一日の流れについて、担当者と担任で連絡・検討する。
（取組結果を検証する）各種指標 ・預かり保育週案の振り返りによる子どもの姿のみとり ・担当者と担任との連携の振り返り ・アンケート 「子どもは預かり保育に安心して参加している」 「未就園３歳児の預かり保育や８時から 18 時までの預かり保育は子育ての支援につながっている。」

中間評価

各種指標結果 ・3 歳児の午睡についても保育室や絵本室など適した環境を模索し昼食後一定時間の休憩時間を設け午睡を促した。夏季休業中の預かり保育では、４・５歳児も暑すぎる夏を健康に過ごすため昼食後の休憩時間を設け、午睡がしやすい環境を整えた。 ・3 学年が同じ場で遊ぶためそれぞれの発達に応じた玩具やその配置の工夫を行った。 ・子どもの遊びの様子や健康面につい担当者と担任が連絡連携し、家庭にも必要に応じて様子を伝えた。 アンケート 安心して参加している…大変そう思う 63%、そう思う 37% 未就園 3 歳児の預かり保育は子育て支援につながっている：大変そう思う 86%そう思う 10%そう思わ

ない 4%	
自己評価	分析（成果と課題） ・昼食後に一定時間休憩・午睡の時間を設け、ある程度定着し、午睡が必要な子どもが眠れることで安定した園生活を送ることができた。しかし、午睡が不要な子どもへの対応など担当者の配置の工夫が必要である。 ・小さなパーツの玩具の扱いが学年によって全く異なるため環境を工夫することで、3 歳児が落ち着いて遊ぶようになった。また、４・５歳児の遊びを間近で見ることで玩具の扱いも少しずつわかり、3 学年が落ち着いて一緒に遊ぶようになってきている。 ・アンケートから保護者は預かり保育に安心して参加していると考えているが、4歳児の中には、新たな環境に慣れることを優先に考え、まだほとんど利用していない子どももいたり、まだ長時間幼稚園にいることに、戸惑い、不安定な子どもいたりする。まずは毎日の預かりの時間を楽しみに参加できるような環境や、安心できる居心地がよい雰囲気を心がけると共に、保護者の就労等や家庭事情により、毎日参加する子どもが、マンネリ化しないよう、遊びの内容や場づくり、教材選びなどを工夫していきたい。
	分析を踏まえた取組の改善 ・4・5 歳児が楽しめる玩具と 3 歳児が楽しめる玩具を意識した遊びの場の環境構成をする。 ・ボール遊び、絵本の読み聞かせなど子どもが楽しみにできる企画や、季節に応じた遊び（毛糸など）を取り入れる。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・週案による振返りと発達に応じた玩具の出し方など環境構成の見直し アンケート　前期と同じ項目
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・3 歳児の預かり保育利用が少しずつ増えてきていることはよかった。 ・預かり保育内容の充実のため、ボール遊びや絵本読み聞かせ等に協力をする。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

（４）子育ての支援に関して

具体的な取組
・教育相談クラスたまご組（０～３歳児親子)、ぷちひよこ組（２歳児親子）ひよこ組（未就園児３歳児）を実施し、発達に応じた遊びや活動の場や、子育ての悩み（トイレ・食事など）を話せる場を提供する。 ・在園・未就園児保護者同士が子育ての喜びや苦労を共有し、つながる場として「ほっこり子育てひろば」を行う。
（取組結果を検証する）各種指標
・教育相談開催回数と参加者 ・子育てのことを話す場の開催数と参加者数、話し合いの内容・感想

中間評価

各種指標結果	
・教育相談開催日（4 月～8 月） ひよこ組（週 5 日毎日開催）　ぷちひよこ組 39 回　延べ 325 組　たまご組 31 回　197 組参加 ・ほっこり子育てひろば 4 月 5 月 7 月分　12 人 ワークシート「いつくしむ」誕生会参加保護者にて実施　ワークシートの項目から話が広がった ・たまご組ぷちひよこ組「トイレのことを話そう」「食事のことを話そう」開催　　18 組親子参加	
自己評価	分析（成果と課題） ・地域の未就園児親子が集う場を定期的に開催した。「どこで遊ぼう」と遊び場を求める声も時々聞かれた。子どもが砂や水に触れられ安全・安心な遊び場を求めていることを感じる。 ・ほっこり子育てひろばでは他学年の保護者同士が語らうことで自分の子育てへの考えの幅が広がり気持ちが楽になる様子が見られた。 ・未就園児クラスで生活習慣（トイレ・食事）の話をする場を設けることで、様々な情報や苦労などを話すことができ、自分も家庭でやってみようとする気持ちを持ってもらえることができた。幼稚園のトイレを使うことで、家庭以外のトイレを経験でき排泄の自立に向かう一助となった。
	分析を踏まえた取組の改善 主に在園児対象の誕生会後のほっこり子育てひろばを継続するほか、子育てのことを気軽に話せる機会をたまご組・ぷちひよこ組にて開催する。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 （前期と同様）・教育相談開催回数と参加者 ・子育てのことを話す場の開催数と参加者数、話し合いの内容・感想
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・子育ての不安を話したり、幼稚園・小学校などこれからのことも聞きたいこともあろう。子育て中の人同士が話す場は大事にしたい。PTA も現役保護者として協力できる。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果	
自己	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

評価	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

（５）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

具体的な取組 ・「ふかふか竹林」や稲荷山へ年間を通してでかけて自然に触れ、地域への愛着や地域の人への親しみをもてるよう園内で活動を振り返る。 ・学校運営協議会を中心に、地域の方々と関わる機会（苗屋さん・絵本読み聞かせなど）を設け、地域の方々に子どもへの願いや活動内容の意味などについて伝え、本園の教育活動への理解を促す。
（取組結果を検証する）各種指標 ・地域への園外保育（散歩を含む）や園外保育後の保育での子どもの姿のみとり ・保護者や学校運営協議会を含む地域の方の意見の聞き取り ・アンケート 「子どもは園外保育ででかけた深草地域の自然や場所、名称（ふかふか竹林など）を知っていますか？」

中間評価

各種指標結果 ・地域への園外保育では「みっけバック」を活用し、そこに見つけた自然物をバッグに入れ、帰園後にバックの中を見直すことで見つけたものや行った場所へ思いを寄せていた。また、大きな周辺地図をつくり、見つけたものをそこに並べ振り返り「みっけマップ」をつくった。 ・地域を何度も歩き、よく通る道で「ここから涼しいな」「ここに〇〇がある」などその道や場所のことを知る言葉が聞かれるようになった。 ・苗やさんや七夕の活動に地域のかたが参加する機会に子どもとかかわり園の教育活動を知ってもらうことができた。 アンケート：深草地域の自然や場所、名称を知っている（A70%　B30%）	
自己評価	分析（成果と課題） ・竹林への園外保育など地域を歩く中で、いろいろな気付きをすることで、子どもたちは地域を知り、自然への関心が高まったり愛着を感じたりすることができた。 ・みっけマップを保護者がみて、通園途中に見つけたものを「ここかな」と子どもと話すなどして園と家庭とがつながって地域への関心が高まった。また、竹の成長を紙を切って長さを貼るなど目に見ええる形で示すことで保護者や地域の方にも見てもらえ、子どもたちの気づきを知ってもらうことができた。
	分析を踏まえた取組の改善 後期は前期と同じ場（稲荷山）にて季節の違いを感じる。また、ドングリ拾いなど新たな場へ園外保育に出かけ広く地域を知る機会をつくる。 秋冬のみっけマップをつくる

	園外保育の活動と園内の遊びがつながることで活動が広がり、豊かな経験となるよう工夫する
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・園外保育の活動と園内の遊びや生活とのつながりのみとり アンケート ・子どもは、園外保育を通して、深草地域の自然や場所、名称（ふかふか竹林など）を知ったり、興味をもったりしている。 ・子どもは、深草地域のいろいろな人（なかよし会・竹林・科学センター・小中学校などの人）に興味をもってかかわっている
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・稲荷山への引率補助など安全面への協力を行う。 ・ポップコーンパーティーや園内展の参観、預かり保育での絵本読み聞かせやボール遊びなど園児の活動にかかわる中で子どもたちの成長を感じることができる。こちらもかかわりを楽しみにしている。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

（６）教職員の働き方改革について

重点目標 ・教職員が一人一人の力を発揮し、情報を共有し、円滑な園運営を行う
具体的な取組 ・会議の開始・終了時刻を明確にし、事前に資料に目を通すなど、時間を意識した進行を行う。 ・ノー残業デーのポスター掲示と職朝での周知 ・連絡アプリ活用による登園前の電話対応減少や保護者配布物印刷の一部削減。同時に保護者への発信方法の見直し
（取組結果を検証する）各種指標 ・会議資料の事前配布の状況と時間内での進行状況 ・ノー残業デーの周知と状況 ・アンケート 「連絡アプリと紙（月行事一覧など）を併用した手紙の内容は伝わっていますか？」

中間評価

各種指標結果 ・会議資料事前配布は概ねできており職員会議は時間内に進行できている。企画委員会については保育にかかわる内容について話し合いが多岐にわたり時間を超えることもある。 ・ノー残業デーの周知をしているが、当日の職員朝礼での意識づけが不足している。 アンケート　手紙の内容は伝わっているか？（A60%　B36.7%　C3.3%）	
自己評価	分析（成果と課題） ・ノー残業デーの周知や職員会議のは会議時間内進行は概ねできている。企画委員会は保育内容にかかわる活動の在り方など吟味に時間がかかる傾向がある。大事な検討事項は丁寧に行うが会議終了時刻を意識していく。 ・園から保護者への発信をアプリ中心にすることで、印刷配布の効率化が図られた。また、カレンダー式の月行事は紙媒体で、写真などがあるふかふかだより(子どもの姿)はアプリで行うなど発信方法の区分けも周知できてきた。しかし、アプリ(携帯の画面)上でのおたよりの内容の熟知がアンケートの数値に表れていると考えられる。
	分析を踏まえた取組の改善 ・会議時間の開始と終了時刻を明示し、時間を意識した会議の進行をする
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・会議終了時刻の確認 アンケート（前期と同じ）
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・学運協（なかよし会）の連絡もアプリが導入され、次第に使い方に慣れてきている。保護者も次第に慣れていくだろうが、フォローが必要な場合もあるだろう。伝わりやすさの工夫は必要だろう。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策